

実践記録

学校/学年	小学校 / 4年	
教科等：単元名	道徳：文字だけでつたえるたのしさやむずかしさ	
キーワード	情報モラル 携帯 メール	
情報モラル指導モデルカリキュラム表における目標	分類	情報社会の倫理 法の理解と遵守 安全への知恵 情報セキュリティ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	a3：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ
	中目標項目番号 中目標項目内容	a3-1：他人や社会への影響を考えて行動する
授業会場	パソコン教室 普通教室 特別教室〔 〕 その他〔 〕	
学習の目標		
使用教材	教材名	事例で学ぶ Netモラル
	製作者	広島県教科用図書販売株式会社
	入手先(URL等)	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶNetモラル」

展開案

	学習活動	指導 評価
導入	1, インターネットや携帯を使うときに気をつけることを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル学習の導入として扱ったので、まずは、ネットに対しての子ども達が持っている知識や考えを発表させる。 意見の内容ごとに分類し板書をする。その中からメールについて取り上げる。
展開	2, プロジェクターを使い、「事例で学ぶNetモラル」を見る 3, 何が問題だったか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 最後まで見せて、何が起こったかを意見を出させ全員で確認をする。問題の場面・重要な場面を再度見せる。 「いいよ」と言うメールの文字が、書いた人と呼んだ人に誤解を与えたことをとらえる。メールによる連絡は、誤解を生むことがあることがわかったか。
おわり	4, 友達と連絡を取るときにどんなことに気をつけていけばいいかを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> メールによる誤解が起こらないように、どうすればよいかを考えさせる。 誤解を生まないためにどうしたらよいかを考えられたか。

授業の成果

- ・視聴覚教材でもあるので、子ども達は真剣に見ており、見終わるとすぐに何が問題だったかを発表した。
- ・メールが誤解を生むことを理解し、「すぐに返事を出せばよかった」「直接はなせば、誤解は起こらなかった。」という発言が多く出された。

指導のポイント・留意点

- ・「事例で学ぶNetモラル」は、容易に何度も見せることができるので、子ども達にどの場面がポイントかを言わせて再度見せるようにする。
- ・メールが悪いものだという認識にならないようにする。